

拠出金名：世界エイズ・結核・マラリア対策基金拠出金

| | | | | | | |
|---|---------------------|----------------------------------|------|------------|----------------|---------|
| 国際機関等名 | (略称) | | | | | |
| 種 別 | 国連本体 | 国連専門機関 | ○その他 | | | |
| 所轄官庁担当局課名 | 外務省大臣官房国際社会協力部専門機関課 | | | | | |
| 最近3年間の我が国支払額及び拠出率、ODA率(注2) | | | | | | |
| 単 位 | 金 額 | | | | 拠出率(%) (注1) | ODA率(%) |
| | 邦 貨 (千 円) | 外貨1 (千ドル) | 外貨2 | レ ー ト | | |
| 平成15年度 | 9,350,000 | (注2) 83,030 | | 1\$ = 122円 | 8.6% | 100 |
| 平成14年度 | 1,024,800 | 8,400 | | 1\$ = 122円 | 8.5% | 100 |
| 平成13年度 | | | | | | |
| 拠出上位5ヶ国 | | | | | | |
| | 国 名 | | | | 率(%) | |
| 1位 | 米国 | | | | 36.5 | |
| 2位 | イタリア | | | | 12.1 | |
| 3位 | 日本 | | | | 9.1 | |
| 4位 | 仏 | | | | 7.0 | |
| 5位 | オランダ | | | | 4.9 | |
| 左の率及び順位は 2003年の拠出額 (2004年6月現在) | | | | | | |
| 当該機関に対する我が国としての評価(当該機関の政策に対する我が国の意見の反映度を含む) | | | | | | |
| 世界エイズ・結核・マラリア対策基金は、2000年の九州・沖縄サミット、2001年4月の国連エイズ特別総会、同年のジェノバ・サミットを受けて創設された基金であり、世界の3大感染症であるエイズ、結核、マラリアの開発途上国における予防・治療・ケアを行う国、国連機関およびNGOが実施するプログラムを資金面で支援するための基金である。(同基金の資金管理は世界銀行が実施)。我が国は同基金の理事国であり、1/18の投票権を有している。 | | | | | | |
| 合理化、機能強化のための改革が行われているか。 行われている場合はその現状と我が国としての評価 | | | | | | |
| 同基金は2002年1月の発足以降、現在も内規、M/E(モニタリング&評価)戦略、国別調整機構(CCM S)の強化、事務局の組織等の機能強化にかかる改革を実施中。我が国は理事(外務省国際社会協力部参事官)としてこれらのプロセスに積極的に参加。2003年予算の承認プロセスの中で、他の理事国と共に、基金の合理化を促し、実現させた。又本年4月30日、フィーチャム事務局長は管理対象案件数の増大に効果的に対応するため、「オペレーション」業務であるポートフォリオ管理に業務の重心を移した事務局機構改組を実施し、その一環として、下記の通り、ポートフォリオ支援・政策部長に邦人職員を配置することができた。 | | | | | | |
| 邦人職員数(注5) うち幹部以上 | 2 人 うち 1 人 | 当該機関の職員数及び 邦人職員が職員全体にし める率 | | | 85人 1.2% | |
| 邦人職員が占めている幹部ポスト | | | | | | |
| ポストの名称(ランク) | | 職 員 氏 名 | | 備 考 | | |
| 基盤支援・企画部長 (D-1) | | 関 栄一 | | 厚生労働省よりの出向 | | |
| 当該機関重要ポストへの邦人職員送り込みについての具体的な計画 | | | | | | |

(注1) 我が国とは会計年度が異なるため、拠出率については暦年(2001年～2003年)。また本件基金に対する無償資金拠出(次頁)を含めた拠出率。

(注2) 我が国は本基金に対して2001年6月に2億ドルを拠出表明しており、このうち財務省予算で25%、外務省予算で75%を手当てすることとしている(平成14年～16年)。なお、平成15年度邦貨支払額のうち補正予算分は\$=110円で換算。

(注3) 邦人職員数は、2004年11月現在のもの。